

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100308		
法人名	有限会社 アクティーサービス		
事業所名	グループホーム向陽台 3Fだけのこ		
所在地	千歳市白樺2丁目1番1号		
自己評価作成日	令和5年12月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が不安なく安心して日々を過ごせるよう、声かけを行ったり笑顔で対応を行なっている。  
 入居者が日常的に活動を持ち、生活の中に役割を持ってもらえるよう働きかけている。  
 入居者、家族と信頼関係を得られるような雰囲気作りを行っている。  
 職員不足だが、シフト調整を行い、入居者の方が季節を感じたり、身体機能を維持出来る様な活動を行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171100308-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171100308-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西1丁目1284番地 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年3月1日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から至近距離にあり、コンビニやスーパーマーケット、公園等がある自然豊かな環境に位置している。町内会とは開設時から良好な関係にあり、神社祭の子供神輿が駐車場に立ち寄り利用者を笑顔にさせている。また、運営推進委員として4名の参加があり、意見や情報等が得られている。さらに敬老祭や法人主催の夏祭りにも参加が得られ、利用者や職員に声掛けがある。家族参加型のバーベキューや夏祭りなどを企画し、共に利用者を支える関係が築かれている。職員は、コロナ禍以前の活動に戻すべく利用者の五感を刺激する企画を次々と立案しており、利用者からは感動の声が上がったり笑顔が増すなど、活動意欲にも繋がっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を口頭で伝えることは出来ているが、実践となると尊厳や尊重、入居者主体などが少なく、職員本位になってしまう時がある。	開設時からの運営理念は、利用者、職員、地域との関係性を4項目で表している。その中でも「入居者が主人公」をケアの重要ポイントとしており、会議等で実践できているかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	感染症が落ち着き、外部との付き合いが増えてきている。以前から行われていた「子供神輿」の行事も行なわれている。	町内会の配慮で子供神輿が立ち寄り、利用者は「わっしょい」の掛け声を出して夏の風物詩を味わっている。地域の文化祭に利用者の力作を出展し、法人主催の夏祭りには地域住民との交流が見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加して頂き、認知症に対する理解や支援方法、現状を見ていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行われており、活動報告などを伝え、サービスの向上に努めている。	会議には複数の地域関係者、地域包括支援センター、家族、利用者が参集している。利用者や職員の状況、活動内容、事故の原因と改善策等に加え、事業所便りを添付して運営状況を報告している。推進委員と意見や情報を交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表や管理者が市担当者との間で相談できる関係が出来ている。	行政の各部署とは良好な関係を構築しており、相談事や事故報告提出時は担当窓口に出向き助言を得ている。ケースワーカーや介護認定調査員の来訪時は情報を交換して、利用者の安定した生活を支援している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を作っている。研修内ではユニットでの事例をあげ、話し合いを行い拘束がないよう努めている。	身体拘束をしないケアを基本とし、理念に掲げている「人としての尊厳と尊重」の実践に努めている。指針に沿って適正化委員会と研修会を定期的に開催して、拘束による事例とその弊害等を学びケアに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学べる機会を作っている。研修内ではユニットの事を話し合い、虐待防止に努めている。職員同士指摘し合えるような信頼関係が出来てきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について各自で調べたり、プリントした資料を職員間で回覧し、制度を理解出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が十分な説明を行っており、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター横に意見箱を設置したり、面会時や介護計画書発送時にアンケートをお願いしたり、意見や要望を伝えられるように取り組んでいる。	家族には毎月、日常の様子や行事の写真等を掲載した事業所便りを送付しており、状況が分かり嬉しいとの声が届いている。利用者や家族の要望等は関わりから把握し、さらに家族にケアプランを送るときにも意見・要望書を同封している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常会話の中で職員の意見を聞く機会を設けている。	代表者は常に在勤しており、事業所の実状を把握している。職員は業務の中で感じたことを職員間で共有し、解決策を話し合っているが、内容によっては管理者が代表者の指示を仰いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足が続いており、労働時間が長くなったり、休日が少なくなったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加出来るよう、取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所や医療介護の連携の会など交流の機会があり、意見等を聞き質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前に情報収集を行い、利用者の方の不安要望に耳を傾け安心出来るよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様より困っていることや不安な事を聞き取り、入居者様、ご家族様が安心して生活出来るように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在必要としている支援を把握し、本人に合ったサービスを受けられるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干す、食器拭き、日常の生活を一緒に過ごすことでお互いに感謝の気持ちを伝え支え合う関係作りが出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話で状況を伝え、受診に同行して頂いたり、ご家族様と一緒に本人を支えていく関係を作れるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所だった方が訪ねてきてくれたり、声を掛けてくれるなどの交流が出来ている。	現在は面会が可能になり、家族や知人等と会話を楽しんでいる。年末や年始には、半数近くの利用者が家族の支援で外出や外泊をしている。ドライブで馴染みの場所へ出かけ、利用者から歓声が上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やゲームなど行う時間を設けており、入居者同士が交流を持ち、孤立しないように働きかけいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも回復し、ホームでの生活が可能になった場合、再入居出来るように相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の中から思いや意向の把握に努めている。	職員は、利用者のふとした言葉や何気ない仕草などから思いを紐解き、満足度が上がる支援に努めている。終末期への意向は家族から伝え聞いている。入浴時は、利用者の生活歴が聞ける機会となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や入居前のサービス利用時の情報を聞いたり、本人との会話から以前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやミーティングなど意見交換を行い、本人の状況に合わせ、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの更新時や利用者の状況に変化があった時は、職員間で現プランの続行か新たな支援目標を策定するかを協議している。利用者や家族の意向を踏まえ評価や課題を洗い出し、その時々々に即した内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭や記録で情報を共有するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人にとってどんなサービスが良いのかを考えて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の病院の受診、往診、消防の避難訓練を行っている。町内会なども活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院と連携を取りながら適切な医療を受けられるように支援している。	希望する医療機関を受け入れているが、利用者全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。また、歯科医は必要時に来訪している。他科受診は、家族と協力して支援している。週1回、看護師の来訪時に利用者の健康状態を相談している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	判断に困った時は都度病院に確認し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院や家族と話し合いの場を設け、治療方法や退院に向け情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来る事、出来ない事を説明し家族、病院と話し合いの場を設け方向性を決めている。	利用者や家族には重篤時における対応を説明して、納得の上同意を得ている。最期まで事業所での生活を希望する利用者や家族もいるが、24時間の訪問診療は困難な状況下にあり、ぎりぎりまで支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、全ての職員が実践力を身に付けているかはわからない。応急対応や初期対応の訓練を受けていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を行っており、落ち着いて対応出来るようにしている。	年2回建物全体として1度に昼・夜を想定した火災避難訓練を実施して、1回目が終了している。防火管理者の代行は、代表者や管理者としている。発電機を備えているが容量的に不足が生じる可能性もあり、課題としている。	予定している2回目の避難訓練の実行に期待する。今後は、業務継続計画に沿って自然災害を含む訓練と、併せて備蓄品の再確認や課題である発電機の改善に向けた取り組みにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の伝達などは声をトーンを下げたり隠語を使用している。また排泄など他者に聞かれたくないことは傍により、声をかけている。	理念の中でも利用者を主体とした支援を謳っている。職員は、身体拘束等適正化委員会や研修会でも適切な支援のあり方を学び実践に努めている。上司は、馴れと親しみの違いなどを職員に教え導いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を発する入居者には対応出来ている。自ら発することが困難な入居者は職員本位になってしまっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切にし、楽しみと休息をバランスよく生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服と一緒に選んだり、月1度の理美容の日を設けておりおしゃれが出来るように取り組んでいる。汚れなど気付いたときには更衣を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食材を伝えたり、盛り付けを行なってもらったり、食後の片付けを一緒に行なっている。	食事は、調理したものが業者から届いている。行事食は、注文をストップして屋外で焼肉や敬老会では出前寿司などで食の楽しみに繋げている。利用者は、手伝いを申し出て得意分野を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせた食事量(医師の指示のもと)や、食事形態(ソフト食や一口大)ロミ剤の使用など、適量摂取出来るよう対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングやシート、うがいなど個人に合わせた対応を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声かけでトイレ誘導を行なっている。オムツの方は時間を決めて交換を行っている。	職員は、声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。状態に応じてポータブルトイレを使用する利用者もいるが、何れも羞恥心に配慮した支援に努めている。職員の努力により、衛生用品の着用から布下着になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れたり、医師に相談し下剤を使用し、便秘にならないよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望には添えていないこともあるが、間隔が空かないように入浴出来るよう支援している。	入浴は、一人で入浴したい、同性介助、回数、温度等の要望を受けとめ、週2回を基本としている。拒否の時は、利用者の意思を尊重しているが、言葉かけを工夫して入浴に繋げている。状況により肩にタオルを掛け足湯をしておのシャワー浴も行い、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により日中居室で休まれたり、夜間も明るさや室温などに気を付け、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加があった際、連絡ノートや口頭で伝え、服薬の間違ひなどないように職員間で確認を行い、服薬の支援を行っている。服薬後の変化なども観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事参加、ゲーム、体操、作品作りなど行い、気分転換が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ていないが、駐車場まで行き、外の空気を吸ったり花見やバーベキュー、子供神輿を楽しむ事が出来た。	駐車場のベンチで日向ぼっこや体操をして、「暖かいね」「外に出ると気持ちがいいね」などの声が聞かれている。ドライブで車窓から住宅街の庭を眺め、桜並木や紅葉を觀賞し、時には車を止めてシャボン玉を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かってホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取り次ぎを行うことができる。また、毎月のお手紙に本人がメッセージを書いたりすることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物で季節を感じて頂いたり、換気を行い不快な臭いをなどないように気を付けて居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間は、快適に過ごせるよう環境を整備している。広めのリビングは動線に配慮して調度品を配置している。ひな祭りに因んだレクでの作品や行事の写真等が飾られている中で、利用者は何気なく集まり、会話を楽しみ、新聞を読んだりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方たちで自由に過ごせるようにソファを設置したり、食卓で新聞を見たり談話したりできる空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの手紙や写真、テレビなど好みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。	居室には、クローゼットやドレッサー等を設置しており、テレビや冷蔵庫、仏壇、家族写真等が持ち込まれている。転倒防止のため家具を移動するなど、利用者が安心して生活できる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を付けたり廊下にトイレなど目印を付けており自立した生活が出来るように工夫をしている。		